

【学力向上フロンティア事業中間報告書】

都道府県名	秋 田 県
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	森吉町立森吉中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	8	17
生徒数	59	58	65	2	184	

研究の概要

1 研究主題

自ら学び、意欲的に自己の向上を目指す生徒の育成

2 内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>個に応じた指導の充実を図るため、以下の学年・教科でTTや少人数学習を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生・社会 昨年度に地理・歴史での分野別少人数学習を進めた結果、生徒や教師から高い評価を得たため。 ・ 2～3年生・数学 習熟の程度に個人差が出やすい教科である。また、TTの実績があり、これまでの実践の蓄積がある。 ・ 1年生・理科 実験や観察でより個に応じることで、基本的操作を十分に習得させたいため。 ・ 1年生・英語 理解の程度に個人差が出やすい教科であり、1年生から基礎・基本をしっかりと定着させたいため。 <p>全教科体制で個に応じるための教材の工夫や開発を行う。(平成15年度～)</p>

(2) 年次計画

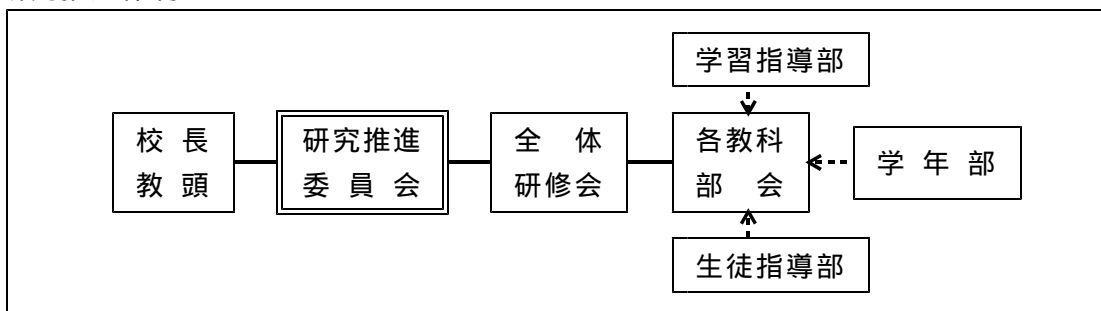
平成14年度	<p>テーマ</p> <p>自ら学び、意欲的に自己の向上を目指す生徒の育成 ～個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善～</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成14年度『個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善』 ・平成15年度『個に応じた指導のための教材の工夫』 ・平成16年度『生徒の学力の評価を生かした指導の改善』 <p>仮 説</p> <p>個に応じた指導方法・指導体制を工夫改善することにより、生徒は意欲的に学習に取り組み、学力が向上するであろう。</p>

	<p>研究内容・方法</p> <p>TTによる様々な指導形態を試み，効果的な指導形態をさぐることを本年度の目標とする。</p>
--	---

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>自ら学び，意欲的に自己の向上を目指す生徒の育成 ～ 個に応じた指導のための教材の工夫～</p> <p>仮 説</p> <p>個に応じるための教材を工夫（開発）することによって生徒は主体的に学習に取り組み，学力が向上するであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>「発展的な学習」や「補充的な学習」など個に応じた指導のための教材・教具の工夫や開発を行う。</p> <p>各教科における教材・教具の工夫や開発</p> <p>【国語】書く能力を高め，相互評価を生かしたシートの工夫 【社会】資料活用スピードに対応したシートの工夫 【数学】つまずきやコース別学習に対応したシートの工夫 【理科】科学的な思考力を高めるための観察・実験の工夫 【英語】自己表現を活発にするためのヒントカードの工夫 【音楽】パート練習を活性化させるためのシートの工夫 【美術】粘土を使って造形意欲を喚起するための工夫 【保体】自己評価や技能のポイントを明確にしたカードの工夫 【技家】スライド発表での相互評価を生かしたシートの工夫</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>自ら学び，意欲的に自己の向上を目指す生徒の育成 ～ 生徒の学力の評価を生かした指導の改善～</p> <p>仮 説</p> <p>評価を工夫し，生徒の実態や変容を的確に把握することによって，個に応じた指導の更なる改善ができ，学力が向上するであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>生徒一人一人の実態を把握し，個に応じた指導に生かすためにはどのような評価が必要なのかを明確にし，より効果的な学習指導を目指す。</p> <p>また，生徒の「学力」に関する状況分析を行い，生徒の姿から本事業の成果を評価する。</p> <p>3年間の成果と課題をまとめ，事業終了後も継続的な実践が可能となるよう，次年度への基盤整備を行う。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成 1 5 年度の研究成果及び今後の課題

1 . 研究の成果

(1) 5 教科における教材の工夫とその成果。表は平成 1 4 年度 , 平成 1 5 年度学習状況調査での本校の平均通過率と全県平均通過率との差の比較である。 は現 3 年生が全県通過率より高かった観点や領域とその数値〔 % 〕である。

【国語】... 文章の大きな構成を意識させながら , 決められた字数にまとめるという書く活動の基本を身に付けさせることができた。また , 書いた文章をお互いに評価し合うことで文章構成を大切にしようとする態度を育成するのに効果的であった。

国 語	現 1 年	現 2 年	現 3 年	
H14通過率の差	-	+3.3%	+2.0%	言語事項+8.6 読むこと+1.3
H15通過率の差	-1.6%	-4.1%	+6.6%	書くこと+26.2

【社会】... 資料活用スピードの個人差が大きいため , 難易度別に課題を設定した学習シートを作成した。各自のスピードに応じて課題を選択して調べ学習を進めたことで , 能力の高い生徒だけでなく , 全生徒の意欲維持に役立てることができた。

社 会	現 1 年	現 2 年	現 3 年	
H14通過率の差	-	+3.4%	+2.0%	思考・判断力+2.0 資源・産業+5.3
H15通過率の差	-1.0%	-0.6%	-2.0%	日本の特色+8.9

【数学】... コース別学習のシートに B 基準の共通問題を設定し , つまずきの見られる生徒には類似した問題を , 理解が十分な生徒には発展課題を提示した。解法の手がかりを得ることができる教具と併用したことで , つまずきが大きく改善され , 基礎的・基本的な内容の定着率が高くなった。

数 学	現 1 年	現 2 年	現 3 年	
H14通過率の差	-	+3.6%	+3.0%	見方・考え方+3.0 図形+5.3
H15通過率の差	-0.7%	-2.1%	-0.3%	数量関係+15.0

【理科】... 地震波を視覚的にとらえることができる室内地震波実験器を製作した。ゆれの特徴や速さの違いを視覚でとらえ , 地震計の記録と比較しながら観察していく過程で , 科学的に分析したり考えたりする力が育ち , 主体的な探求活動を促すことができた。

理 科	現 1 年	現 2 年	現 3 年
H14通過率の差	-	-3.1%	+4.0%
H15通過率の差	+1.0%	-3.1%	+0.8%

科学的な思考+8.5
 気象+17.0
 電流+10.8

【英語】... クイズづくりを通して表現力や理解力を高めさせたいと考え、ヒントカードを工夫した。カードに写真やイラストを入れることで形容詞補語の英文がイメージしやすくなり、文形・用法を正しく理解して表現できるようになった。

英 語	現 1 年	現 2 年	現 3 年
H14通過率の差	-	-	+0.0%
H15通過率の差	-	-7.8%	-3.0%

聞くこと+1.4

(2) その他の教科における教材の工夫とその成果

【音楽】... パート練習を活性化させるために、ハーモニーのポイントが分かるシートを工夫した。音の重なりを意識する生徒が増え、パート内の結束が高まった。また、互いに課題を見付け合いながら、よりよい合唱にしようという意欲が高まった。

【美術】... 豊かな発想を生かし、表現力を高めることができる題材で材料の工夫を行った。粘土を使った授業では、材料の特性を生かしながら独自の作品を制作することができ、発想や構想の能力を高めることができた。

【保体】... 自己評価を高めるために評価規準を示したり、技能のつまずきを改善するためのポイントを明記したカードを作成した。習得すべき基礎技能が明確になったことで、自己評価能力が向上し、生徒同士の教え合いの一助となった。

【技家】... 作品のよさをお互いに評価し合う活動に重点を置き、構想から発表の仕方まで計画的に学習が進められるシートを作成した。評価のポイントを意識させながらスライドづくりを行わせたことで、発表会では建設的な意見交換ができた。

2 今後の課題

< T T 教科での指導体制・評価の工夫 >

・英語や理科での1C2Tの指導体制の授業では、T Tならではの課題提示の方法や役割分担の在り方が課題となった。また、活動のねらいを明示し、ねらいが実現されたかどうかを振り返る場面を工夫する必要も指摘され、T Tや少人数学習での評価を生かした指導や支援はどうあるべきかを模索していく必要がある。

< 教材の工夫（開発） >

・「確かな学力」の向上を目指し「教材の工夫（開発）」が研究の重点であったが、「補充的な学習」の内容に偏りがちであった。「自ら課題を見付け、解決できる力」を育てるためにも「問題解決的な学習」を意識しながら単元の構成や学習活動を考え、教材の工夫につなげていかなければならない。

学力把握のための学校としての取組

全学年（国・数・社・理・英）でC R Tを実施し，分析する。（2月16日）
全学年（国・数・社・理・英）で学習状況調査を実施し，分析する。
数学科でN R Tを実施し，生徒一人一人の実態を把握し，個に応じた指導に活用する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

11月5日「鷹巣阿仁部中学校教科授業公開研究会」では近隣の学校の教員に参加を呼びかけ，フロンティア事業の趣旨説明や，本校としての取り組みを紹介した。
平成16年度は9月上旬に公開授業研究会を行う予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 1 5年度からの新規校 1 4年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無